

心の ともしび



暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう

ロザリオ五連

家族そろって

松浦信行神父



ロザリオの月になると思い出すことがあります。

私の中学生時代、夕食を終え、親父が家に帰っていると、夕の祈りが始まります。

私の家の夕の祈りは、ロザリオ五連（一環）と決まっていました。アベ・マリアの祈りを繰り返し繰り返し祈り、その途中で主の祈りと栄唱の祈りが挟まってくるのがロザリオの祈りです。

夕食後ですから、私たち子どもはお腹が膨れて眠たくなり、ムニャ、ムニャと言葉にならない祈りを始めるのが常でした。すると、親父が祈りを一連追加するのです。だから私たち子どもは早く終わって欲しいと思っているのです、眠たくならないように頑張るわけです。

このロザリオの祈りは、頭の中で別のことを考えていても、祈りを覚えているので、口だけでもしっかりと祈れます。同じ祈りの繰り返しですから頭が集中しないときでも祈れます。パニックに陥ったときでも祈りたくないときでも口が動き



まずから祈れます。今から考えると、横になってロザリオの祈りをするときもあったのですから、私の両親はどういった思いでこの祈りの時間を取っていたのだろうと振り返ることがあります。

多分、家族がそろって神に向かう時を味わっていたのかもしれません。一緒に食事を取るのと同じように、日常生活の中で一緒に心の食事を取り、それが負担とならないように、自然体の形で神がいつもそばにいることを味わうようにと、両親は考えていたでしょう。

祈ったロザリオ。そんなときでも、失意の時でも、神を意識していないようなときでも、ロザリオの祈りを始めれば、しだいに神を意識し、親しく感じられる土台を作っていくように思えるのです。

ホームページ (<https://www.tomoshihi.or.jp>)

【「心のともしび」をプレゼントに！】

機関紙「心のともしび」を離れて住むご両親、お子様、お孫様、ご兄弟姉妹、お知り合いの方々への贈り物にいかがでしょうか。1年間の購読料1500円（税・送料込）であなた様の大切なの方々へお送りさせていただきます。ご送付を希望される方は下記までお問い合わせください。

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル 心のともしび運動YBU本部（電話：075-211-9341 FAX：075-211-9343）